

ミシガン湖への外来種の侵入防止の対策案のその後の動き —米国陸軍工兵隊による調査の結論を2年早め2013年に纏める—

ミシシッピー川からミシガン湖への Asian carp (アジアコイ) などの外来魚種の侵入を防止するために、物理的に両水系を分離する案が the Great Lakes Commission (五大湖委員会) から公表されたことを、平成 24 年 2 月 7 日に報告致しましたが、その後、米国陸軍工兵隊による調査を 2 年早め、2013 年に取り纏め、議会、一般大衆、利害関係者にパブリックコメントにかけることが、工兵隊から公表されました。事態の切迫性を考慮して工程を早めたとのこと。この公表に対して、五大湖委員と環境保護団体は、賛成を示しています。検討は、五大湖委員会の案を中心に行われるが、より広範な検討が行われるであろうと、推測されています。最終的には、2015 年に選択肢を議会と一般公衆に示す予定とのこと。今後の対策の実施においては、議会と公衆の支持が重要であるとも述べられています。この記事は、ENR の 2012 年 5 月 21 日号に掲載されたものです。

2 月 7 日の報告でも申し上げましたが、経緯の主な点は以下の通りです。

1. 1900 年代に、シカゴの排水をミシガン湖から分離しミシシッピー川に排水することと、舟運等の利便性の向上のために、ミシガン湖とシシッピー川が接続された。このことは、ミシガン湖の保全と地域の利便性に大きく貢献した。
2. しかし、この接続により既にミシシッピー川に侵入している Asian carp 等の外来魚種がミシガン湖に侵入する恐れが近年発生した。現在は、工兵隊が接続の運河に電気的バリアーを設置して侵入防止に努めているが、その効果が限定的であるとして、物理的に両水系を分離する案が五大湖委員会によって提示された。
3. 五大湖委員会の結論は、両水系の物理的分離は、実現可能としていますが、シカゴの排水の処理と舟運の代替策を含めて多額の費用(数十億ドル)が必要とされています。

私の私見は、前回の報告でも申し上げましたが、以下の通りです。

- 五大湖委員会の案は、実施までに種々の課題があると思っていましたが、工兵隊が検討を早めることで大きな前進と思います。
- 依然、都市排水と舟運をどうするかの問題は残っており、地元の合意と費用の確保は大きな問題と思います。
- 調査の結論が 2 年早められたといいながらも、全体の工程は以前のままであるため、外来種の侵入防止に間に合うのが心配です。

Army Corps To Fast-Track Solutions for Asian-Carp Problem

Publication Date: 5/21/2012

Author: Pam Hunter

Description: Environmental groups that are monitoring the migration of Asian carp to the Great Lakes region are hopeful that a recent plan by the U.S. Army Corps of Engineers will accelerate the timetable for keeping the aggressive species out of the lakes.

以上